

令和3年度
全国学力・学習状況調査
鹿児島県結果分析

市町村別の調査結果



令和4年1月
鹿児島県教育委員会

市町村別の調査結果

正答率分布グラフについて

- ※ グラフは、児童生徒の正答率分布グラフです。
- ※ 横軸は、正答率を5段階に分けて示しています。
1 : 0%~20%未満, 2 : 20%~40%未満, 3 : 40%~60%未満,
4 : 60%~80%未満, 5 : 80%~100%
- ※ 縦軸は、各段階の児童生徒数の割合を示しています。
- ※ ただし、正答者数を四捨五入して割合（整数値）としているため、若干の誤差があります。

【様式1】

児童数	5294	小学校数	78
生徒数	4891	中学校数	38
計	10185	計	116

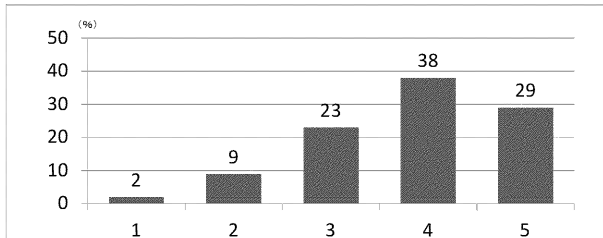
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

鹿児島市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

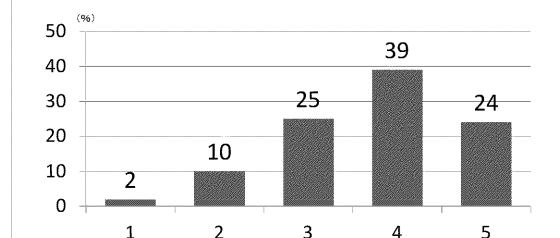


〈課題〉

・5段階の分布状況については、4、5の段階は、67%で全国と比べて、5.6ポイント高かった。1、2の段階は、11%で全国と比べて3.5ポイント低かった。中央値は、10(14問)で、全国より1問高かった。
 ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉えること、説明的文章の内容を把握すること、要約することに課題がみられた。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

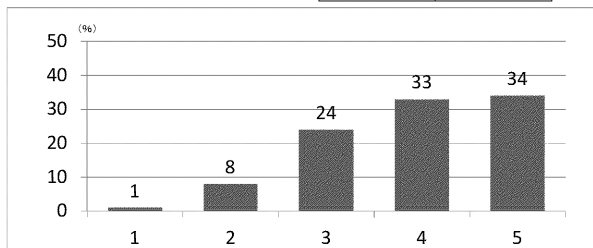


〈課題〉

・5段階の分布状況については、4、5の段階は、63%で全国と比べて1.8ポイント高かった。1、2の段階は全国とほぼ同じであった。中央値は、10(14問)で、全国より1問高かった。下位層を引き上げていく必要がある。
 ・説得力のある文章にするために、推敲の際の意見と根拠の関係付けや交流をする際の文章の構成に課題がみられた。

【算数】

標準偏差 3.4

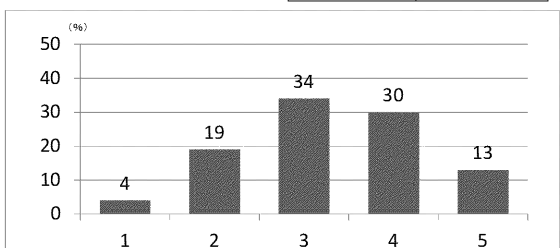


〈課題〉

・5段階の分布状況については、4、5の段階は67%で全国と比べて3.7ポイント高かった。1、2の段階は、9%で全国と比べて2.1ポイント低かった。
 ・道のりと時間の関係について考察すること、速さを求める除法の式と商の意味を捉えることに課題がみられた。

【数学】

標準偏差 3.7



〈課題〉

・5段階の分布状況については、4、5の段階は43%で全国と比べて1.8ポイント高く、3段階の割合が34%で最も高くなった。
 ・図形領域において、平行四辺形になることの理由やいつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを表現するなど数学的な見方や考え方を働かせることに課題がみられた。

【改善策】

平均正答率は、全ての教科で全国を上回った。しかし、各教科の設問別に見ると平均正答率の低い設問(分野)や無解答の多い設問が見られる。質問紙調査においては、「自分の考えを発表する機会では、自分の考え方がうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」という質問事項に対して、「発表していた」または「どちらかといえば、発表していた」と回答した割合が全国と比べて低く、他者に自分の考えを説明することを苦手としている児童・生徒が多いと思われる。

(今後の具体的な取組)

以下の内容を各学校の学力向上策として、特に重点的に取り組むよう指導する。

〔小学校〕(国語科) 文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短く要約する活動。

(算数科) 数量関係に着目し、図で表した関係を式にしたり、式に表した関係を図で表したり、図や式の意味を言葉で説明したりする活動。

〔中学校〕(国語科) 文学的な文章を読んで理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりする活動。

(数学科) 図形の性質を見いだし、それを数学的に表現し、根拠を明らかにして他者に説明する活動。

また、以下の取組を推進する。

- 「かごしま学力向上支援Webシステムの単元・領域別評価問題」、タブレットを活用した演習問題(CBTによる自動採点方式)の積極的な活用。
- 一人一台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学び。
- 担当指導主事の「マンスリーテレフォン(月初めの定期的な電話)」による課題や現状の把握及び授業改善。
- 児童質問紙、生徒質問紙の分析をし、非認知能力の育成を目指した教育活動。

11月下旬に、令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策(市教委作成)の冊子を配布し、管理職研修会や指導主事の校内研修派遣時において、上記の活動に重点的に取り組むよう指導する。

「今後の具体的な取組」の他、諸学力調査等の結果分析、共通実践事項の設定、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の指導、習得状況の見届けの徹底を引き続き行う。

【様式1】

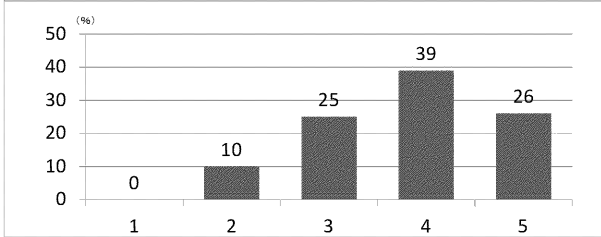
児童数	386	小学校数	15
生徒数	396	中学校数	7
計	782	計	22

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

日置市教育委員会

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

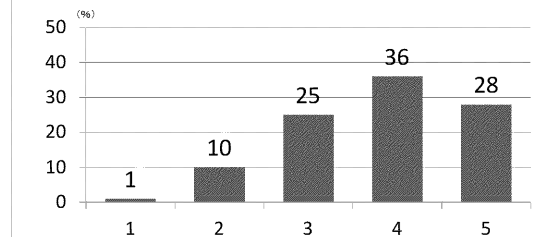


〈課題〉

・4, 5段階は前回と比べて若干少なくなった。一方で, 前回と比べて下位層の底上げがあった。また, 県平均と比べると, 平均通過率は同じである。活用する力が十分に定着しているとは言えない。
・目的に応じて文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける力や, 目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する力に課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

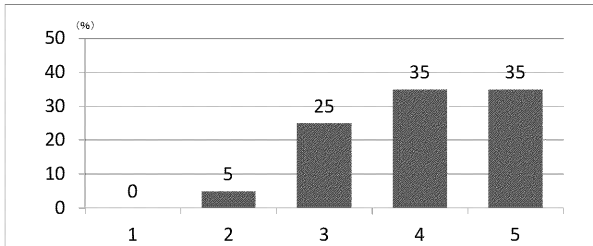


〈課題〉

・前回と比べて5の上位層が大幅に少なくなり, 分布の山がやや中央寄りになってきている。一方で, 県平均と比べると5の上位層が若干多い。
・書いた文章を読み返し, 語句や文の使い方, 段落相互の関係に注意して書くことに課題がある。

【算数】

標準偏差 3.3

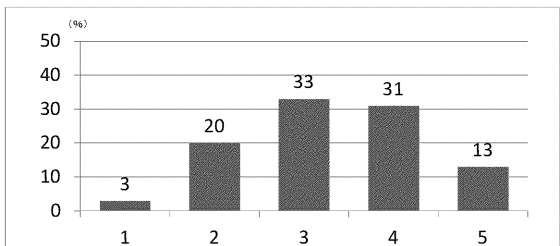


〈課題〉

・4, 5段階は前回と比べて大幅に増加した。また, 1, 2段階も前回と比べて大幅に減少している。県平均を若干上回っている。
・複数のデータを関連付けて記述したり, 計算の仕方や面積等の求め方を記述したり, 説明したりする力に課題がある。

【数学】

標準偏差 3.5



〈課題〉

・前回と比べて5の上位層が大幅に少なくなり, 分布の山が中央寄りになってきている。一方で, 県平均と比べると, 4, 5の上位層が多い。
・データの傾向を的確に捉え, 判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

【改善策】

各学校の結果を分析すると, 全校体制での学力向上に対するPDCAサイクルが確立されていなかったり, 確立されていてもそれが機能していなかったりする学校は, 成果が十分に上がっていない。具体的には, 全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査, またCRT・NRT学力検査の結果分析や全校体制での対策の検討が行われていなかったり, 行われていても結果分析のみにとどまっており, 改善策を検討し, だれが, いつ, どこで, なにを, どのように(どの程度)行い, どのように評価するかなどまでは, 検討されていなかったりする。さらに, 結果分析を基にした各学校における日々の授業改善の視点が明確になっていない学校もある。諸学力検査への対策や取組を強化するとともに, その取組を日々の授業改善と有機的に関連付けることが児童生徒の更なる学力向上につながるものとする。

(今後の具体的な取組)

○ 継続して成果が出ていない学校について, 諸調査等の結果分析, 授業改善に関する指導を行う。具体的には, 管理職の研修会等において, それぞれの学校における学力向上PDCAサイクルを検討させたり, 進捗状況の確認指導が確実に実行できるようにしたりする。

○ 「学びの羅針盤」の校内研修における活用の徹底や「今週の1問」への取り組み強化など, 新たな取組を行うことよりも今整えられている学力向上に対する施策や資料等の活用が各学校において「徹底」できるようにしていく。

○ また, 以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。

〔小学校〕(国語科) 複数の資料を関連付けて考えながら, 自分の考えを明確にし, 字数, 条件, 時間を意識して書くことの指導を徹底する。

(算数科) 図形に関する指導については, 言葉と図と操作の過程を関連付ける指導を徹底できるようにする。また, グラフに関する指導, 資料活用能力の基礎となることから, 1年「絵や図を用いた数量の表現」2年「簡単な表やグラフ」3年「表や棒グラフ」4年「二次元の表, 折れ線グラフ」5年「百分率, 円グラフ, 帯グラフ」6年「資料の平均, 度数分布」などの系統を意識した指導を重点的に行う。

〔中学校〕(国語科) 読み手の立場に立って文章を整えたり, 文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えを確かなものしたりする指導を行う。

(数学科) 目的に応じてデータを収集して処理し, その傾向を読み取って批判的に考察し判断することを通して, 統計的に問題解決することができるよう指導する。

児童数	202	小学校数	8
生徒数	211	中学校数	5
計	413	計	13

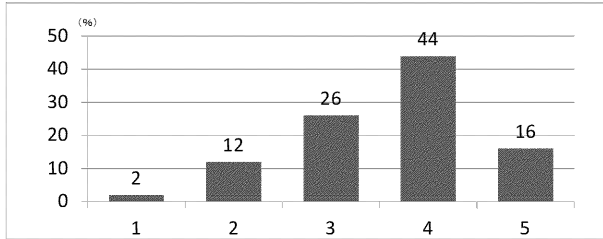
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

いちき串木野市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

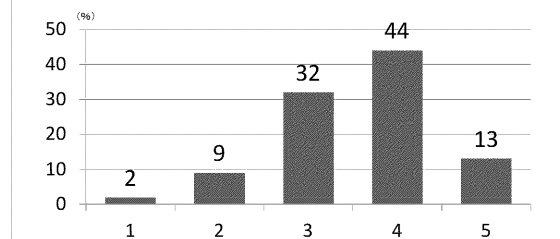


〈課題〉

・3, 4, 5段階の割合は86%で県平均と同数値だが, 5段階の割合は前回と比べ9%減少しており, 県平均と比較しても8.3%低いため, 上位層をどのようにして伸ばしていくかが課題である。
 ・自分の主張が明確に伝わるように, 文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.6

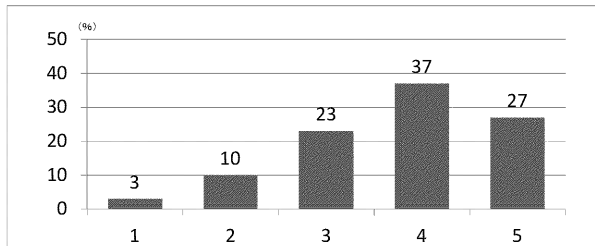


〈課題〉

・1・2段階の割合は前回と比べて5%減少し, 下位層の引き上げが図られたが, 5段階の割合が前回と比べて20%減少し, 県平均と比べても8.7%低い。このため, 上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
 ・読む能力, 記述式の問題形式への指導が課題である。

【算数】

標準偏差 3.6

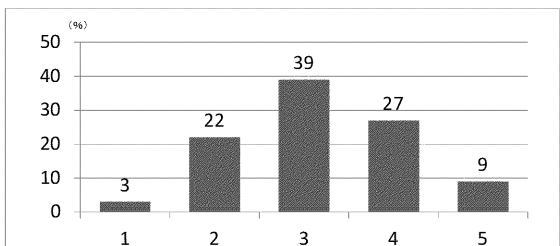


〈課題〉

・3, 4, 5段階の割合は前回と変化はないが, 5段階の割合が3%上昇した。一方で, 1・2段階の割合は前回と変わらず, 県平均より3.3%高いことから, 下位層の引き上げが今後の課題である。
 ・データの活用に関して, 思考力・判断力が十分定着していない。

【数学】

標準偏差 3.4



〈課題〉

・1・2段階の割合は前回より8%減少したが, 3段階の割合が県平均より3.5%高く, 5段階の割合は前回より12%減少しており, 中位層の引き上げが今後の課題である。
 ・数学的に表現したり, 説明したりする問題が課題である。

【改善策】

- ①昨年度まで, 「今週の一問」による演習問題の取組の徹底, 「授業づくり5ポイント」を活用した指導の徹底を行ってきた。
 - ②これにより, 今回の調査結果では, 前回と比べ, 中学校国語・数学において下位層の基礎・基本の定着が図られたが, 依然として, 小学校国語における活用する力が課題としてあげられる。このことから, 昨年度までの取組については, 下位層に対して, 「今週の一問」による習熟, 授業中における個への手立ての面では効果があったと考えられるが, 小学校国語科において「今週の一問」における活用問題と「授業づくり5ポイント」を有機的に関連付けた指導の面では取組が不十分だったと考えられる。また, 前回と比べ標準偏差が小さくなっていることから, 取組に対する学校間の差はなくなってきたと考えられる。
 - ③このため, 今後は, 評価問題(活用問題)を通じた授業改善を中心に, 以下の事項に重点的に取り組んでいく。
 (今後の具体的な取組)
- 「今週の一問」や各種評価問題を授業改善に結び付けられるように, 以下(1)~(3)を市学力向上教員研修会, 教務主任等研修会, 管理職研修会等で指導し, 管理職の日々の授業参観時に指導の徹底を図ると同時に, 学校訪問の際に改善が図られているか確認し, 改善がなされるまで指導を徹底する。
- (1) 「評価問題を分析に基づく授業改善のポイント」を使って, 教員が評価問題で問われている資質・能力や当該資質・能力を育成するための授業改善のポイントを自力で分析し, 日々の授業に還元できるように指導を行う。
 - (2) 「学力調査の設問に盛り込まれている問いを当該授業における学習課題として位置付け, 問題に提示されている条件を授業でも提示し, 時間・字数・条件を提示して各自まとめを文章化させていく授業」モデルを提示し, 日々の授業づくりに取り入れるように指導を行う。
 - (3) 【小学校】〔国語科〕自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える指導を行う。
 (算数科) 問題文の情報を整理できるように, 絵図に表してから立式に結び付ける指導を行う。
 【中学校】〔国語科〕場面の雰囲気をどのように感じるか, 叙述を根拠に理由を述べさせる指導を行う。
 (数学科) 言葉や数, 式, 表, グラフ等の数学的表現を用いて, 事象を簡潔・明瞭・的確に表現する指導を行う。
- 『「授業参観の視点と指導助言のポイント」に関する指導の例』を管理職研修会で配布し, 授業参観の際に活用するように指導した。授業参観時に「主な課題」と「その要因」, 具体的な改善策(指導助言のポイント)を掲載し, 当該資料に沿って管理職が職員に指導することにより, 職員が自分の授業に向き合い, 課題を認識するようになると同時に管理職の指導力向上にもつながると考える。

【様式1】

児童数	132	小学校数	4
生徒数	135	中学校数	4
計	267	計	8

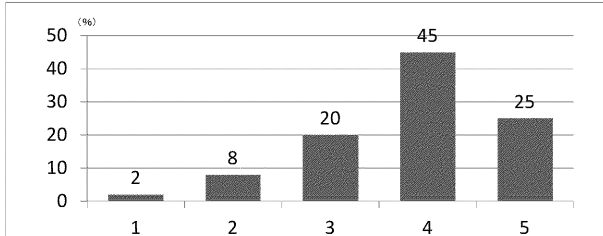
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

枕崎市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

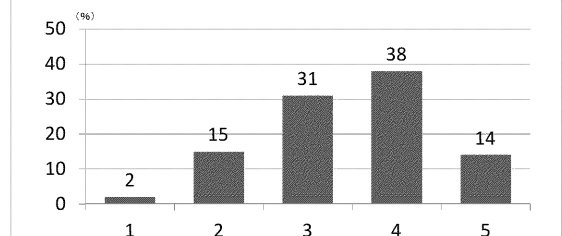


〈課題〉

- ・ 4, 5段階は69.8%となっており, 前回と比べて, 8.8ポイント上回った。県平均と比べ, 上位層の割合が多い。
- ・ 目的に応じて, 文章と図表を結びつけて必要な情報を見つけること, 目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約すること, 文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることに課題が見られる。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

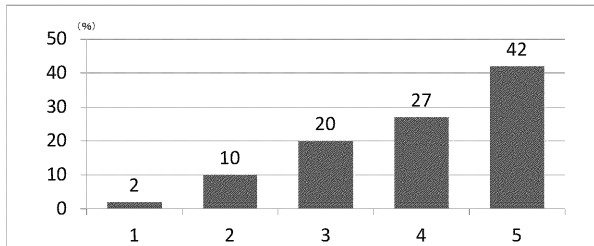


〈課題〉

- ・ 4, 5段階は52.5%となっており, 前回と比べて, 13.5ポイント下回る結果となった。県平均と比べ上位層の割合が少なく, 下位層が多いので, 全体的な底上げを図るとともに, 上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- ・ 文学教材における語句の意味の理解や, 内容を捉えて自分の考えをまとめる問題, 意見文の語句や文の使い方に関する問題に課題が見られる。

【算数】

標準偏差 3.4

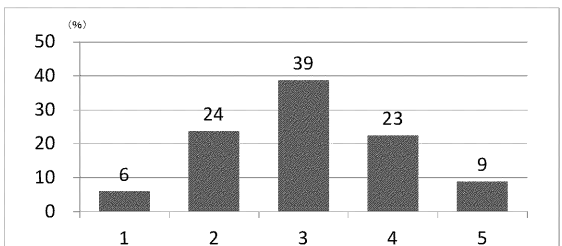


〈課題〉

- ・ 4, 5段階が68.9%となっており, 前回と比べて, 7.9ポイント上回った。
- ・ 1, 2段階が11.4%であり, 下位層の割合が少なく, 上位層が多い。
- ・ 速さを求める除法の式と商の意味を理解すること, 帯グラフで表された複数のデータを比較し, 示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題に課題が見られる。

【数学】

標準偏差 3.5



〈課題〉

- ・ 4, 5段階が31.4%となっており, 前回と比べ25.6ポイント下回る結果となった。県平均と比べ上位層の割合が少なく, 下位層が多いので, 全体的な学力の底上げが必要である。
- ・ 事象を数学的に解釈し, 説明する問題や, データの傾向を的確に捉え, 数学的に説明する問題, 図形の性質を見だし, 数学的に表現する問題に課題が見られる。

【改善策】

- 本市においては, 市内各小・中学校の校内研修に指導主事を派遣し, 研究授業を通して教師の指導力向上に向けて継続的に指導を行ってきた。また, 市教科部会において授業を通じた研修や授業実践を通じた研究協議等を行い, 教師の指導力向上を図るための取組を行ってきた。各学校においては, 授業改善への取組を進めるとともに, 演習問題等への取組を継続的に行い, 学力向上への取組を行ってきた。
- 今回の調査結果では, 前回と比べ, 小学校国語と中学校数学で標準偏差が小さくなり, 指導の成果が現れている面もあるが, 学校間で結果に差が見られることが課題として挙げられる。このことから, 教師の指導力向上への取組については一定の成果があったが, 各学校での演習問題への取組や個別指導が必要な児童生徒への指導の取組状況によって, 結果に差が現れてきているものと考えられる。
- このため, 今後は, 教師の授業改善や指導力向上への取組や演習問題への取組について継続的に指導を行うとともに, 以下の事項に重点的に取り組んでいく。
(今後の具体的な取組)
○ 管理職研修会や学校訪問, 校内研修での指導主事による指導助言を通して, 諸調査の結果分析や授業改善に関する具体的な指導を行う。また, 指導した内容について改善が図られたかどうか継続的な学校訪問を通して, 改善の見届けを行う。
○ 学力向上に向けて成果のあった取組事例を管理職研修会で示し, 各学校で活用していくよう指導する。
○ 中位層や上位層を更に伸ばし, 全体的な学力の底上げを図るために, 基礎的・基本的な内容を確実に定着させるとともに, 「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題を, 週1回以上取り組ませるよう指導を徹底する。併せて, 下位層の底上げを図るために, 個別指導を充実させるとともに, GIGAスクール構想で整備された児童生徒1人1台端末を有効に活用した指導を推進する。
○ また, 以下の事項を管理職研修会や校内研修会等で指導し, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
〔小学校〕(国語科) 授業において, 目的に応じて必要な情報を見つけ出し, 条件に沿って書くことができる力を付ける指導を充実させる。
(算数科) 計算の過程や式の意味を説明する活動や, 図形領域の指導, 図表やグラフから必要な情報を読み取り, 表現させる活動を充実させる。
〔中学校〕(国語科) 語句や文の使い方や段落相互の関係に注意して書くこと, 文学教材の語句の意味や内容の読み取りや自分の考えを条件に沿って書く活動を充実させる。
(数学科) 日常的な事象を数学的に解釈して説明する問題, 複数の図表から傾向を捉え, 数学的に説明する問題, 図形に関する性質を見だし, 数学的に表現する問題への取組を充実させる。

児童数	293	小学校数	9
生徒数	287	中学校数	5
計	580	計	14

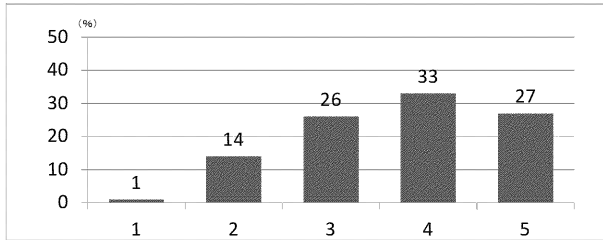
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

指宿市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 3.0

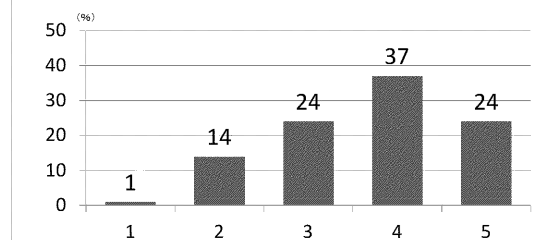


〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階は60%となっており、令和元年度と比べて-2Pとなった。また、県と比べると-5Pという結果である。3段階が+3P、2段階が+4Pであり、やや下位に分布する。
 ・県と比較して記述式の正答率が低く、無解答率が高い。「B 書くこと」は-7Pであり、記述式に関して依然として課題が見られる。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

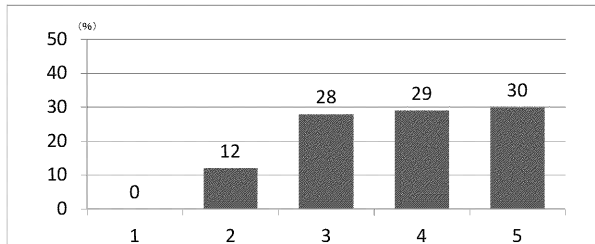


〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階は61%となっており、令和元年度と同率の結果であった。令和元年度6%であった1段階は1%となり、下位層の移動が見られる。5段階は4P下がり上位層の指導の工夫が必要である。
 ・記述式3問の全てで県平均を上回る結果であった。これまでの取組を継続する必要がある。

【算数】

標準偏差 3.6

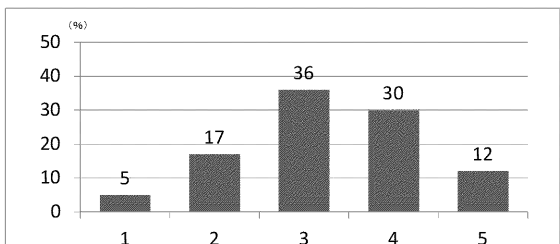


〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階は59%となっており、令和元年度と比べて-2Pとなった。また、県と比べると-6Pという結果であるが、5段階だけを令和元年度と比較すると+5Pであり、3段階も+6Pと下位層からの移動が確認できる。
 ・記述式は県との比較で-2Pである。
 ・県と比較すると全ての領域で0、2P~4P下回った。

【数学】

標準偏差 3.5



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階は42%となっており、令和元年度と比べて+1P、県と比較しても+3Pであった。1、2段階は22%で、令和元年度と比較して-14P、3段階は+13Pと下位層の分布が変化した。取組の継続が必要である。
 ・記述式の5問全てで県平均を上回る結果であり、県との比較で全ての領域で上回る結果であった。今後も取組の充実が必要である。

【改善策】

昨年度まで、以下に示す事項等について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り組んできた。

- 市内全中学校を学力向上推進校に指定し、学力向上に向けた指導主事の定期的な学校訪問を行い、学力向上に向けた取組(Webシステム単元別評価問題、過去の調査問題の活用、個別指導の徹底)について指導及び見届けを徹底する。
 - 各学校の「学力向上プラン」を通して、課題解決に向けた具体的な目標や実践計画を基にした、PDCAサイクルにより年間を通した取組を支援する。
 - 「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用を図るために、各学校において掲載問題の年間活用計画を作成するとともに、各学級の取組状況について、管理職による見届けを徹底する。
 - 指宿市授業力向上事業(ITPいぶすきのためばプロジェクト)により、学力向上に向けた見識を高め、教員の意識向上や指導力向上に向けた教師力アップ研修会を実施する。
 - 「いぶすき授業カーリーフレット」や「学びの羅針盤」を校内研修会等で積極的に活用するよう指導し、活用状況について見届けを徹底する。
- 今回の調査結果では、令和元年度と比べ、中学校で実施2教科共に全国・県平均を上回ったが、小学校では実施2教科共に全国・県平均に届かない結果であった。問題形式において小学校の記述式の正答率は全国・県平均より低く、中学校では記述式の正答率は全国・県平均より高くなっている。前回、小学校は記述式の正答率が高く、中学校は記述式の正答率が低かったことを考慮すると記述式の指導が課題として挙げられる。前回と比べ標準偏差は小さくなっているが、学校間での成果に差があり、今後も取組を徹底したい。
- 今後は、以下の事項に重点的に取り組んでいく。
- 継続して成果が出ていない学校については、学力向上推進校として、より細かな諸調査等の結果分析、授業改善に関する指導を行う。また、指導した内容の改善が図られたかどうかを確認するため継続的に学校訪問を行い、改善がなされるまで指導を徹底する。
 - 個に応じた学習活動を充実させるため、1人1台端末を活用したAIドリルの活用を推進する。
 - 以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕

(国語科) 目的や意図に応じて、自分の考えを文章にまとめ、発表し合う活動の充実と過去問等を活用した演習トレーニング

(算数科) 授業終末時の振り返りの時間の確実な設定と、学習定着状況の見届けの徹底と過去問等を活用した演習トレーニング

〔中学校〕

(国語科) 目的や意図に応じて必要な情報を収集し、根拠を明確にして自分の考えを記述する学習の充実と過去問等を活用した演習トレーニング

(数学科) 授業終末時の振り返りの時間の確実な設定と、学習定着状況の見届けの徹底、過去問等を活用した演習トレーニング

【様式1】

児童数	236	小学校数	12
生徒数	228	中学校数	5
計	464	計	17

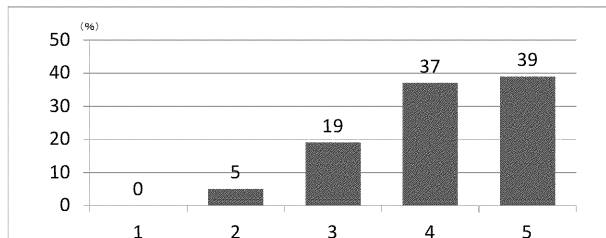
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

南さつま市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.6

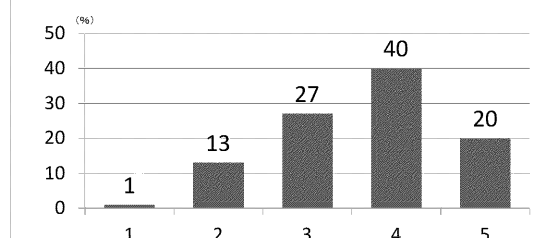


〈課題〉

・4, 5段階は76%となっており, 前回と比較して伸びが見られる。また, 県平均と比べると, 5段階の割合が多い。
 ・「読む能力」に関して, 目的に応じて中心となる語や文を見付けたり文章と資料を結び付けたりして, まとめることに課題がある。今後は, 資料を活用する力を更に伸ばしていきたい。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.7

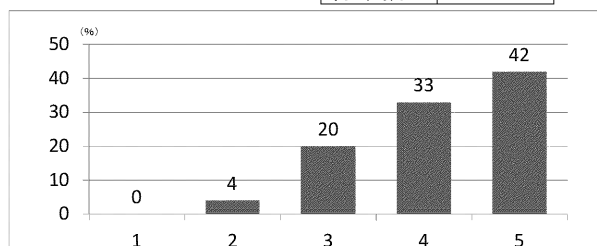


〈課題〉

・4, 5段階は60%であり, 前回と比較するとやや下回っている。中・上位層の活用力をさらに高め, 下位層においては基礎的・基本的事項の確実な定着を図る必要がある。
 ・「読む能力」に関して, 文章に表現されている「ものの見方や考え方」を捉え, 自分の考えを書くことに課題がある。

【算数】

標準偏差 3.0

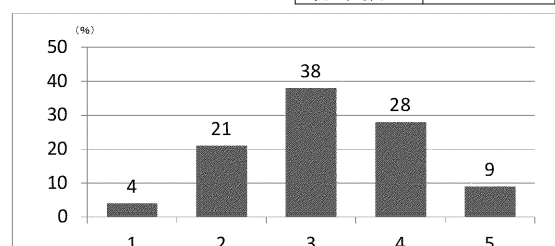


〈課題〉

・前回と比べ5段階の児童が多く, 1~3段階の割合が少ない。
 ・「数学的な思考・判断・表現」に関して, 図形を構成する要素やグラフに示された特徴などに着目し, 問題の解決方法を説明することに課題がある。

【数学】

標準偏差 3.5



〈課題〉

・前回と比べて3段階の割合が増え5段階の割合が少ない。全体的に知識の定着を図り, 活用力を育成する必要がある。
 ・「数学的な見方や考え方」に関して, 数学的な結果やデータの傾向などについて説明することに課題がある。

【改善策】

- ① 本市では, これまで小・中・義務教育学校及び高校が連携して学力向上推進委員会を年3回実施し, 研究授業を通じた指導力向上に努めてきた。また, 各学校では, 自校で策定した「学力向上グランドデザイン及びロードマップ」を基に, 市教委が配布した「今週の1問」や学校が作成した活用型問題を計画的に実施してきた。
- ② これにより今回の調査結果では, 児童生徒の思考力・判断力・表現力が高められ, 小学6年生では, 4段階, 5段階の割合が増えるなど伸びが見られた。一方, 中学3年生では問題によって無答率が高いなど新たな課題が見られる。
- ③ 今後は, 以下の内容について重点的に取り組み, 指導内容や指導方法について, 職員間や学校間で情報連携し, 学力を更に高めていく。
 (今後の具体的な取組)
 ○ 各学校に調査結果の分析及び改善策の検討を行わせる。その上で, 改善策に係る取組は年間指導計画に位置付けさせ, 確実に実践と見届けを行うよう指導する。また, 学校の実態に応じて, 資料提供や好結果を収めている学校の事例紹介などを積極的に行う。
 ○ 各学校に「かごしま学力向上支援Webシステム」の単元別評価問題などを計画的・継続的に活用するよう指導する。この中で, 市教委が指導の重点とする内容については「今週の1問」として, 全市の共通実践として取り組む。
 ○ 学校訪問や校内研修, 学力向上推進委員会等の機会を捉え, 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために指導を行う。特に対話活動や書く活動を重視した指導については, 具体的に指導し, 教員の指導力の向上を図る。
 ○ タブレットの積極的な活用を図る。特に, 話し合い場面などで有効なロイロノートや, 補充や習熟を図る場面で有効なAIDリルの具体的な活用について教師が積極的に取り扱えるように職員研修を充実させる。

〔小学校〕(国語科) 話題の中心が捉えられるように, 目的意識をもって文章を読ませる学習活動を継続的に行う。

(算数科) 問題の解き方や考え方が自分の言葉で記述できるように, 順序を意識しながらを互いに説明させる活動を重視する。

〔中学校〕(国語科) 文章に書かれている見方や考え方が理解できるように, 文章構成や段落の要旨を捉えさせる指導を行う。

(数学科) 自分の考えを数学的に説明できるよう, 問題解決のための見方や考え方に慣れさせる指導を重視する。また, 相互に説明させる活動を取り入れ, 学び合いの場の充実を図る。

【様式1】

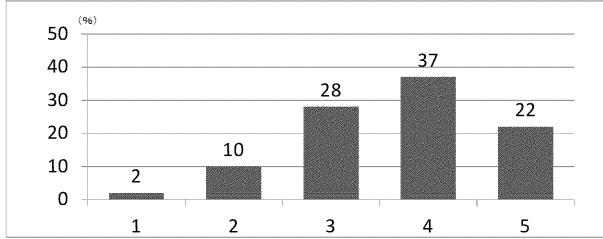
児童数	262	小学校数	17
生徒数	258	中学校数	3
計	520	計	20

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南九州市教育委員会

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

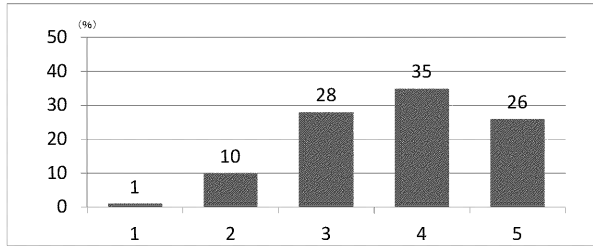


〈課題〉

・4, 5段階は59%となっており, 前回と比べて, ほとんど変わっていない。また, 県平均と比べると, 1, 2段階が多く, 3段階が少ないという特徴がある。下位層に対する個別指導を継続して補充指導を行う必要がある。
・目的を意識して, 中心となる語や文を見付けて要約する力に課題がある。

【算数】

標準偏差 3.2



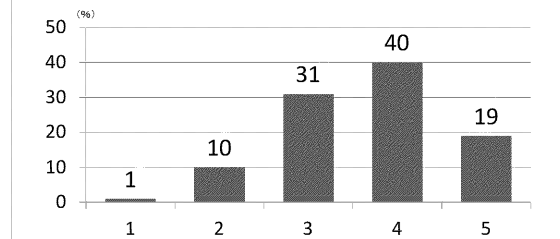
〈課題〉

・前回と比べると1, 2段階が減り3, 4段階の割合が増加し, 改善状況が見られる。全体的には県とほとんど変わらない状況である。
・帯グラフで表された複数のデータを比較し, 示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題の通過率が低かった。

【改善策】

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.7

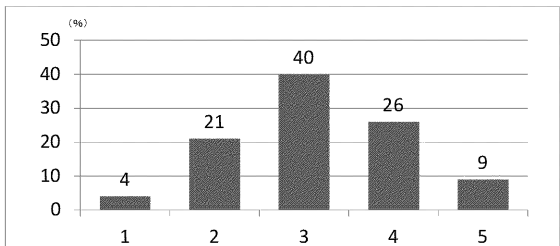


〈課題〉

・前回と比べて5段階が11P減り4段階が増えている。また, 県平均とほとんど同じような結果であった。
・推敲する場面において, 語句や文の使い方, 段落相互の関係について考える問題の正答率が低く, 文章を書く力を高める必要がある。

【数学】

標準偏差 3.4



〈課題〉

・前回と比べると, 1段階の割合が減り, 3段階の割合が大きく伸びている。全体的には県平均とほとんど変わらない状況である。
・データの傾向を的確に捉え, 判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の通過率が特に低かった。

- ① 昨年度まで, 南九州市学力向上推進プロジェクトによる学力向上の取組を実践している。本市では, 「主体的・対話的で深い学び」を視点に, 研究授業を通して, 授業改善を図ること, 演習問題に計画的に取り組ませること, 学習を支える力の育成ということで「基本的な生活習慣の定着」や「特別活動を中心とした支持的風土作り」等に取り組んできている。
- ② これにより, 今回の調査結果では, 前回と比べ, 下位層が減少し, 中間層が増えるという改善傾向が見られる。しかし, 中位層をさらに伸ばし, 上位層まで高めることが全国と比較すると課題である。このことから, 昨年度までの取組については, 確実に実効性の高い取組として効果があったと考えられるが, 学校によって取組の精度に差が生じていることが明らかになった。特に, 演習問題への取組には, 活用頻度だけでなく「分かるようになるまで」複数回取り組んだ学校とそうでない学校の差が顕著に表れている。
- ③ このため, 今後, 学力向上が十分に図られていなかった学校に対しては, これまでの取組の具体的な改善策を検討させるとともに, 鹿児島学習定着度調査で改善傾向が確認できるように演習問題への取組を充実するよう指導する。また, 県平均を大きく上回っている学校には, 自校の取組を他校へも波及させることができるよう実践を管理職研修会等で紹介していただく。

(今後の具体的な取組)

- 継続して成果が出てない学校については, 個別に管理職と面談を実施し, 改善策を作成させて, 実践するプロセスを担当指導主事が学校訪問し, 見届け, 指導・助言する。
 - 1人1台端末を活用して, 児童生徒が苦手な問題を保存して繰り返し取り組めるようにする。また, できるようになったことを確認する活用方法等工夫させる。
 - また, 以下の事項を指導主事による学校訪問を行い改善されているかどうか確認する。
- 【小学校】 国語の授業では, 要約できるようになるために必要な文章の中心となる語や文の選び方を指導し, 指定した字数でまとめられるよう指導しているか。算数の授業では, 目的に応じて, データを集め, 観点を決めて分類整理し, 表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ることができるよう指導方法の工夫・改善が行われているか。
- 【中学校】 国語の授業では, 自分が書いた文章を, 読み手に分かりやすい文章に整える力を, 数学の授業では, 収集したデータをグラフに表し, 的確にデータの傾向を読み取る力を身に付けられるよう指導方法の工夫・改善が行われているか。